

平成30年度 第1回鴨川市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年12月18日(火) 開会 午前10時50分
閉会 午後 1時00分
- 2 場 所 東条小学校 3階 視聴覚室
- 3 出席者 (1) 亀田郁夫 市長 (2) 月岡正美 教育長
(3) 石井千枝 教育委員 (4) 根本新太郎 教育委員
(5) 吉原里夏 教育委員 (6) 永島康弘 教育委員
*事務局員
(7) 洲永康弘 学校教育課長 (8) 助川孝浩 学校教育課指導主事
*東条小学校職員
(9) 松本俊一郎 校長 (10) 谷 智恵 教頭

4 開 会 (助川学校教育課指導主事)

ただいまより、平成30年度第1回鴨川市総合教育会議を開催いたします。始めさせていただきます。始めに、本日の会議の出席者について、ご紹介させていただきます。

○ 助川学校教育課指導主事による、出席委員および関係職員の紹介

ここで本日の日程を説明させていただきます。このあと亀田市長よりご挨拶をいただき、そのあと東条小学校の松本校長から、東条小学校の現状についてお話しをいただいたあと、授業参観をしていただきます。

○ 助川学校教育課指導主事による、授業参観クラスについての説明

授業後にこちらに戻ってきていただき、授業を基に質疑応答、それから教育に関する意見交換を12時30分ころまで行い、その後給食を試食しながら懇談していただき、午後1時には全てを終了したいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

5 市長挨拶 (亀田市長)

皆さん、おはようございます。今日はよろしくお願いいたします。

はじめに、お手元に資料を配布させていただきましたが、これはあとで読んでいただければと思います。この資料には、現在の市の厳しい財政状況を記載してあります。それをいろいろな方にご理解いただきたいと思います。それを抜きにしてご挨拶させていただきます。

教育委員の皆様には、日頃から教育に関する深い識見に加え、教育に対する熱意を持って本市の教育行政の充実にご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りし、御礼を申し上げます。

また、本日は、この総合教育会議にご出席いただきありがとうございました。今日の総合教育会議は、地方自治体のリーダーである首長と、教育行政の執行機関である教育

委員会が、互いの立場を明確にしながらい体となって教育の課題に取り組むことができるよう、平成27年4月1日から施行されたものですが、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、民意を反映した教育行政の推進を図る上で意義のあることであります。

こうして日頃、お会いする機会が少ない教育委員の皆様と顔を合わせながら、考えを共有しあえる貴重な場であり、今日は皆様のご意見をお伺いし、今後の市政に生かしてまいりたいと思います。是非、堅苦しいものにならないよう、ざっくばらんな話し合いとなりますことをお願いし、私の冒頭の挨拶とさせていただきます。

今日はいろんなことを私も勉強させていただきたいし、特に、月岡教育長に鴨川市教育長としてお越しいただいてから、小湊の統合も急でしたが、どうしても一つに統合した方がいい、とのことから、いろいろなことに取り組んできました。昨日は、小湊保育園で保護者の皆様と話し合いをしてきました。お子さんを抱えるお母さん方は、子どもたちの成長をどうやって教育という中で育てていくか、あるいは我々行政に対する子育てに係る要望など、とても関心を持っていらっしゃいます。

また、天津保育園と統合した場合についても、かなりいろいろなことについて考えていますので、我々は天津保育園と小湊保育園が1つになった後に、どのように子どもの成長を支援するか、ということを実際に捉えないといけないと改めて感じています。

今日は、有意義な時間にしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございます。

6 学校長より

(助川学校教育課指導主事)

ありがとうございました。それでは、このあと授業をご覧いただく前に、松本校長先生より東条小学校の現状について、簡単にご説明いただきます。

(松本校長)

東条小学校がこうして会場に選ばれたということは、市内の学校が抱えているいろいろな課題を凝縮して、それが東条小学校にあるのだな、ということであるのではなからと思います。お陰様で少しずつは良くなってはいるのですが、実際、特別に支援を要する子の中には、本当に昨年度までは教室から飛び出してしまう子がいたことも事実です。現在は、このような子どもたちも、ようやく何とか教室には入っている状態ですが、やはり本校にとって、今は学級経営とか学習指導を行っていく上で課題となっています。

その理由としては、大きく3つありますが、1つめは、軽度な発達障害というか、多動な子がいて、飛び出してしまうやすい子、それから学習障害といって黒板の字が写せなかったりだとか、漢字がよく覚えられなかったりとか、そういう子もいます。また、本校には1名、足の不自由な子もいたりして、いろんなことで支援員さんに入ってもらい、支援をしながら指導をしてはいるのですが、そういう発達障害の子として名前が挙がってくるのが、東条小学校では約50名ぐらいいます。各学年にいる割合はよく16%と言われるのですが、それぐらいの割合で存在しています。

2つめが、このところ、外国籍の子どもが増えてきているということがあります。家庭での会話が英語ということで、そういう子が学校に入学してくると、他の子どもとのコミュニケーションも取れないし、授業などもよく分からないということもあります。

先生が何を話しているか分からないということで、2学期の途中からは、特別支援教育支援員をお願いして、外国語サポーターということで、英語で授業を通訳したり、学校便りやお手紙などを英訳してくれたりする方が今は本校にいて、何とか、外国から来た子どもや保護者の方の支援を徐々に行うことができるようになっていきます。

最後に3つめが、子どもや親の横のつながりが弱くなっているということです。やはり社会が変化したことによって、子どもの外遊びが少なくなっていることもあり、社会性の発達がどうしても遅れてきているということから、自分さえ良ければ、我が子さえ良ければ、ということで、子どもたち同士で何か一緒にやっ払いこう、みんなで何か一緒にやろう、というところが少なくなっているのです。担任としては、個を支援しながらも集団をまとめていかなければいけないし、学校で学ぶ一番の意義は、集団の中で一人一人がどのようにやっていくかということですが、そういうところがやはり非常に厳しい状態であるので、支援員さんとか、その他いろいろな人に個を支援してもらいながら、担任としては、集団としてその学級を維持していかなければいけないということで、そこが本校が抱えている大きな課題で、それがなかなか担任との細いつながりだけしかないのです。担任が変わると学級が不安定になってしまうということの繰り返しですが、東条小学校がなかなか落ち着かなかつた大きな原因ではないかと思っています。

それと、ちょっとタブレットのことも出たのですが、平成32年からは、新しい次期学習指導要領が全面実施になります。人工知能AIということで、ロボットや、プログラミングは、これからの子どもたちに必要になってきますし、やはり、英語も国際社会、国際化の中で欠かせないものとなっています。今日は、担任が体の具合が悪くて他の人に代わるのですが、ALTの方がいることによって、子どもたちが楽しく英語にたくさん触れたり、たくさん耳にすることによって、英会話や英語に親しむことが増えたり、次の学力向上にもつながってきていると思っています。

本当にたくさんの課題があるのですが、先ほど亀田市長さんからも非常に財政が厳しいというお話を伺いましたが、米百俵の話じゃないですが、将来の鴨川市を見据えて、人材育成のために、よろしくお願ひしたいと思っています。本日はありがとうございます。以上です。

(助川学校教育課指導主事)

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明も踏まえながら、このあと授業をご覧ください。なお、案内は、谷教頭先生にお願いいたします。

—— 谷教頭先生の先導による授業参観を実施した ——

7 確認事項（洲永学校教育課長）

ここからは、私の方で進めさせていただきます。

会議日程の3 確認事項ですが、総合教育会議の運営については、亀田市長のお話しにもありましたように、平成27年の4月に施行されて以来、本年が4年目となります。市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、民意を反映した地方教育行政の推進を図ることを目的として開催するというので、今日はみなさんにいろいろなご意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。では、続きまして日程4の協議に移らせていただきます。

8 協議（洲永学校教育課長）

では、実際に授業をご覧いただき、はじめに校長先生の方から授業について、何かあればお願いいたします。

（松本校長）

今日はありがとうございました。やはり、支援員さんが入ってくださることによって落ち着いてきていますが、支援員さんがずっとついていてくれる子どもは、まだカタカナ等が4割くらいしか書けていない状態で、一斉の指示では理解が難しいので、実は、担任が来年度からは個別指導ではどうですか、という声をかけている最中ですが、すぐに特別支援学級というとなかなかハードルが高いですし、実際、今まで東条小でそういったことがあったわけではないのですが、保護者にとっては、特別支援学級に入ったときには自分の子どもがいじめられるんじゃないかと、すごく心配する保護者もいます。支援を要する子が、すごく落ち着きがないときがあったり、多動の子が騒いだりするときのことを考えると、支援員さんが必要だと強く思っています。そのようにして、大変にならないうちにチームを組んでやっていくということが求められていますし、インクルーシブ教育じゃないですけど、いろいろなところで、装具を付けた子どももなるべくだったら通常学級で、という思いもあります。その場合は、移動等に関して担任以外の人がつかないと安全が確保できないこともあって、そういう面でも、外国籍の子どものことも含めて必要な支援員の配置を今後もお願いしたいと思えます。

（洲永学校教育課長）

今、松本校長の方から話がありましたが、授業を実際にご覧になられて何かご質問や気がつかれたことなど、いかがでしょうか。

（亀田市長）

特別支援学級に、発達障害の子は何人くらいいますか。

（松本校長）

軽度も含めると、本校では、50名くらいあがってきています。

（亀田市長）

知り合いから聞いた話では、場所は忘れたが、その方のお孫さんが通っているどこかの学校でやはりそのような子がとても増えてきて、支援を要する子どものためにどこか他の場所にそういった学校を作ってはくれないのか、また、鴨川に来て作りたい、とかいう話もあったが、今、話を聞いて、本当にそういった子どもが東条にもそれだけいることに驚いた。

（松本校長）

程度の差はあるのですが、例えば、薬を服用しなければ落ち着かないという子もいれば、そうでない子もいますが、子どもたちには自分の特性を理解し、気をつけて、他人に頼らなくても自分で対応できるようなスキルを身に付けさせるよう、指導に努めています。ケガが治るといようなことではなく、リハビリのように継続してやっていくこ

ともありますが。

(亀田市長)

それには、こういった環境が必要だ、ということですか。そうやっていくことで適応できるようになっていくことですか。

(松本校長)

これから社会に出て行くことを考えて、このようにしています。

(亀田市長)

本当にびっくりしました。こんなにきめ細かな対応をしているんだということと、先生方の教え方のレベルがこんなにあがっているということに。時代も違うけれど、昔と全然違うということをすごく感じました。ただただ本当にすごいな、というだけです。それと、タブレットをそんなに上手にプログラミングにまで使っているのにもびっくりしました。

(松本校長)

あれは、タブレットが入ったときから計画的にやっけていこうと進めてきたことです。

(月岡教育長)

鴨川市は全校にタブレットを配備して、先生方がICT支援員から指導や研修を受けて、ICTを活用した授業の向上に努めています。

(亀田市長)

タブレットは、写真を撮ったり、ちょっとした調べ物をしたりするだけかと思っていたので、あのようプログラミングにまで使っていることには驚きました。

(月岡教育長)

あの中に算数の問題のソフトも入っていて、児童が自分で授業や学習の状況に応じて練習問題ができるようになっています。

先ほどの、発達障害を持っている子たちがクラスにいて、他の子と同じように学ぼうとしたとき、担任がその子について指導すると、他の子が進まなくなってしまうことになり、他の子にも、その子にとっても支障が出てしまう。そこで、支援員がついてくれていると、その子にとっても、他の子にとってもうまくいくので、学校にとっては、支援員さんをたくさん付けてくれるとありがたい、ということです。

(石井委員)

きょうはありがとうございました。プログラミング教育について、話には聞いていても、どんな力をこの学習でつけるのかな、ということがよくわからなかったけれど、実際に見てみると、こういう力をつけようとしているのだなということが何となくわかるし、今日のプログラミングの学習をするためには、やはり速さなどの基礎学力がしっかり身につけていないといけないし、塾は1対1でやるけれど、学校で仲間と一緒にやる

ことは、みんなとコミュニケーションをとりながら楽しく学び、きっと効果が上がるだろうなと思いました。やはり、必要な学習なんだなと見ていてしみじみ感じました。予算があって、もっともっとタブレットの台数を増やして、さらに教育を充実させてあげられればよいと思いました。

また、担任の先生が若いのに、ことばがとても丁寧で、とてもよいと思いました。子どもと親しい関係でいることに勘違いをする若い先生もいるけれど、そこがしっかりしていて素晴らしいと思いました。

それから、特別支援のお子さんを育てていくときに、学校と家庭で溝ができてしまうことが多いと思います。学校は、みんなの中や集団の中で一緒に育てていくことを考えるけれど、親によっては、自分の子だけ見てほしいという思いがあるので、学校からのこうした方がいいのではないですか、という働きかけもうまく伝わらなかったりすることがあります。そんなときに、間に入ってくれる人がいるとうまくいくので、保健師さんのような方と連携していくことがよいと思いました。

以前、教員をしていたときに、多動のお子さんがいて、その当時はまだそのような診断をされたことが珍しく、お母さんとどのようにしていきましょうかと入学前に話し合いをしておいたお陰で、突然そのようなことが起きても対応することができました。本人も中学生くらいになると恥ずかしさもあるので、前兆が出てきたときには別室に連れて行って対応することができました。自分で自分のことがわかってきて対応もできるようになって、トラブルも起こらなくなってきました。まわりの子もわかってきて、刺激を与えないように配慮して対応できるようになり、一緒にみんなが育ってきました。したがって、親御さんとの意思の疎通がとても大事なことだと思います。

また、英語はマリア先生がベテランなのでうまくやっていて、1番後ろの日本語が上手に話せない外国の子も、英語の時間は輝ける時間になっていました。前に出したりサブティーチャーのようにできれば、自分が存在感のある時間になります。国語など他の時間に、自分がわからないと他のみんなも英語の時にはわからないんだなということが理解できてきて、お互いにプラスになっていきます。

(吉原委員)

以前、西条小学校に伺ったときに、特別支援学級で、子ども4～5人に対して、先生が1人で、子どもも大変だし、先生も大変だなと感じました。その年々によって子どもの人数が違って大変だと思いますけど、東条小では、現在、先生1人に対して子どもの割合が多くてうまくいかないということはないのですか。

(松本校長)

特別支援学級においては、保護者は1対1を望むのですが、なかなか今は人数が増えてきている中で、それは難しいので、交流学級で指導したり、支援学級の時間割を調整して教員1人が指導する人数が少なくなるように割り振ったりして、教員1人当たりに対する人数が少なくなるように対応しています。さらに、支援員さんにクラスに入ってもらって対応しています。しかし、学年があがると学力差も出てくるので、なかなか難しいところもあります。学校としても、ただ今申し上げたように、様々な課題を踏まえ、子どもたちにとってよりよい指導ができるよう、いろいろ対応を考えているところです。

さらに、教室には入れない、保健室登校の子どもたちもいますので、その指導・対応

について課題と考えています。

(吉原委員)

そういった支援が必要な子がいることも聞いているので、どのようにしているのかなと思って聞きました。それに、中学生になると学力の問題が不登校につながることもあるので。

(松本校長)

やはり、1年生は学校と幼稚園とのギャップがあるので、支援員さんを付けたり、チームティーチングをしたりして、手厚く指導をしています。1年生の指導を失敗してしまうと、後々大きな影響が出てくるので、特に配慮をしています。

(石井委員)

今日は見なかったけれど、この前幼稚園を見たときに、すごくいい指導をしていました。あれなら子どもたちもすごく伸びると思う。のびのびとしていて、話を聞くところではしっかり話を聞くことができていた。

(松本校長)

1年生は入学してきてすぐ5月に運動会があるので、気をつけをしたり、並んだり、いろいろとやっていく中で、幼稚園の特徴が出ることは感じます。

(石井委員)

年少児と年長児でもすごく成長の度合いが違って、教育の力って本当にすごいなと思います。家庭にいるのとは違い、幼稚園や学校教育により、子どもたちの変化・成長をみると、改めて教育の重要性を感じます。

(松本校長)

人数の多い幼稚園から来る子は、たくさんの中でもまれてくるので、自己表現ができる子が多いです。人数の少ない幼稚園は、手厚い分しっかりしているけど、そうでないところもあり、いろいろバランスがあります。それが1年生の教育の中で、人に頼らずにだんだん自分でできてくるように自立に向けてやっています。ただ、1年生のうちは丁寧に見てあげないといけないです。

話を聞くということが、いろいろな面での学習のスタートになります。幼稚園と小学校との交流でも、そここのところは意識して対応しています。

(永島委員)

特別支援のことも話に出ましたが、議会で、鴨川市が不登校の子どもたちの学校復帰や社会的自立を目指し、教育支援センターを初めて設置すると答弁していましたが、それについては素晴らしいことなので、教育長、設置できるようよろしくお願いします。

(亀田市長)

我々行政がそここのところにどう関わっていくか、今後、どのように支援していくべき

か、充実するための方策を考えていきたい。

(永島委員)

小湊小学校と天津小学校の統合によって人数が増えるけれど、中学になってから不登校になる子どももいます。それについてもお願いしたいです。

(教育長)

市長が、不登校支援事業のための予算編成をする方針を示してくれたので、教育委員会事務局としては、本市の課題であった不登校の子どもたちが自分の進路を主体的に考え、社会的自立を支給するため、教育支援センターを来年度設置したく、現在、準備を進めています。財政状況が厳しい中で、不登校支援について、やってもいいよということなので、1つ課題が解消されると思います。

(石井委員)

教育にお金をかけないと、未来はないですね。将来の鴨川市を担ってくれる子どもたちなので、必要などころに予算を付けることはとても大切だと思います。

(吉原委員)

不登校は引きこもりになってしまうと大変です。学校や行政の支援に加えて、フリースクールのようなものも必要かもしれないと思います。

(松本校長)

学校に来ることは1つの手立てであって、目的ではない。このようなスタンスで、不登校の子どもには接しています。また、不登校にならないような魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

(石井委員)

昔のように、何が何でも学校に、というところから変わってきています。社会や子どもたち、保護者の変化に伴い、時代に合った教育が必要になってきていると思います。

(洲永学教教育課長)

では、一通りご意見をいただきましたので、この辺で区切りとさせていただきます。

○市長及び教育委員が給食を試食 (※山口栄養教諭による献立の説明と、食育についての話を聞きながら試食をする。)

9 閉 会 (洲永学校教育課長)

給食も召し上がっていただき、一通りご意見もいただきましたが、この際ですから何かありますか。

ないようでしたら、亀田市長お願いします。

(亀田市長)

教育委員の皆様、今日はどうもありがとうございました。私は、今日、教育は重たいなということと、深いなということを感じました。今日、授業参観という形で拝見させていただきました。自分が親として子育てをしているときは、ただ、子どもをどう育てようかと一生懸命でしかなかったけれど、今日は客観的に見させてもらって、日頃「教育はこうあるべきだ」とか議論をする中で、実際に学校現場を見させていただいたことは、現状を多少なりとも知ることができ、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

また、子どもたちのために、教育と行政がどのようにして一体となって取り組んでいくのかを考え、実行していかなければいけない。子どもたちの成長にとって学校教育は極めて重要であり、行政はそのために子どもたちや学校を支援する役割を担っており、必要な支援がたくさんある中で、今日、学校現場を見て、お話を聞いて、また、何を今やらなければいけないのかをみなさんとお話しをさせていただき、できることを確実にやっていきたいなと思いました。教育は、未来の日本を救うことであり、明日の鴨川を担う子どもたちを育成するものであり、とても大切なものです。私も、十分その認識はあり、教育長も普段から教育の重要性について言っているので、今後も、またお話を伺いながら、行政として何ができるか1つずつやっていくために協力をお願いしたいと思います。

(洲永学校教育課長)

ありがとうございました。今日は、普段あまり授業を見たりする機会のない亀田市長にも授業を見ていただいて、委員の皆様からも貴重なご意見をいただき、有意義な時間とすることができました。ありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回総合教育会議を終了いたします。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

平成31年1月 日

鴨 川 市 長

会議録作成者 洲永 康弘